女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～

旭川市立新町小学校　北島校長

Qお伝えしたいメッセージをお願いします！

「やりたいと思うことは、後悔がないようにやって欲しい」「誰かのせいにしたり、何かのせいにしたり、言い訳したりするのは控えて欲しい」と思います。

教員も管理職も覚悟が必要ですし、自分で決めたことは後悔することもない。様々な状況や条件などはあると思いますが、要は、本人が「やりたいと思うのかどうか」「やる覚悟が自分の中にあるのかどうか」それだけだと思います。自分の人生は自分次第。きっと何とかなりますよ。

Q管理職を志した理由やきっかけは？

2点、ございます。「娘が高校を卒業するまでは、管理職を目指さない」という思いがありましたので、娘が高校を卒業した時、自分が進みたい道を目指せる状況になったと思ったことと、「子どもたちにとって安心できる居場所のある学校」と「先生方が主体的に教育活動や研修に取り組める学校」を目指した学校運営をしたい思いがあったことです。

Q管理職になるために必要だった支援は？

「家族の理解」「自校の管理職、同僚からの理解や支援」「管理職を目指す時に参加した研修会」私にとっては、この3つの支援が全て必要だったと思います。

Q管理職になって気づいたことは？

今まであまり気づいていなかったことですが、あらためて考えたことは6点、ございます。

「人として懐の深さやあたたかさ、しなやかさが大事である」「相手意識を持つことが大事である」「根拠をもって責任をしっかり果たす」「組織として機能させることの大切さと難しさ」「コミュニケーション能力を高める必要がある」「校長会、教頭会、女性管理職会や同窓会など、縦や横の繋がり、そのネットワークに支えられている」以上です。

次ページからインタビューの全文を掲載しております！是非御覧ください！

Q管理職のやりがいや魅力は？

3点、ございます。「「自分に磨きをかける」「自分を高める」意識を、今まで以上に持てる」「子どもたちや教職員の成長、成長した姿を一緒に共有できる」「地域や保護者がとても協力的で、教職員とも共通理解や、良くわかり合えた中で、学校経営や学校運営ができていることは本当に有り難く、やりがいがある」以上です。

Q後輩教職員へのメッセージは？

3点、ございます。「自分を磨き高める時間を努力して作って欲しい」「教員として、スペシャリストの自覚と誇りを持てるようになって欲しい」「チャレンジ精神を忘れないで欲しい」以上です。

子どもたちには「チャンレンジしなさい」と言っていますが、今あるものを新しいものへ変化させることに抵抗感を持つ職員がいます。「知らない」とか「経験していない」ことに対して躊躇し過ぎず、「挑戦することが楽しい」ということを知って欲しいと思います。

Q管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

2点、ございます。「親として自分も育てられていったので、いっしょに成長する意識が大事」、育休終了後の復職について気をつけることは「家庭と仕事をしっかり切り替え両方のバランスを取ること」「全てを完璧にはできないので、完璧を目指さないこと」「ただし、教員としての責任は果たさなければならない」以上です。

インタビュー全文【旭川市立新町小学校北島校長】

1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

2点、ございます。

（1）ある年齢になって、あらためて勉強し直したいという思いがありました。
私には「娘が高校を卒業するまでは、管理職を目指さない」という思いがありましたので、娘が高校を卒業した時、自分が進みたい道を目指せる状況になったと思いました。

（2）「子どもたちにとって安心できる居場所のある学校」と、「先生方が主体的に教育活動や研修に取り組める学校」を目指した学校運営をしたい思いがありました。
そう思うきっかけになったのは、生徒指導が大変な学校に勤務したことです。
その学校は問題行動が多く、子どもたちが安心して落ち着いて、勉強も、学級や学年のことも取り組める環境が必要でした。もちろん先生方も頑張っていましたが、様々な対応に日々追われていたと思います。
私は当時、指導部長をしており、近くから頼もしい管理職の姿を見ていましたので、自分も管理職になって学校運営に力を入れていけたらいいなという思いがありました。

2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか？

3点、ございます。

（1）家族の理解です。
私が管理職を目指す時、主人は上川管内で教頭（単身赴任）をしていました。
私が管理職を目指す時の主人の反応は、「あっ、そうなの？」という感じで可もなく不可もなく、「やりたいのなら、どうぞ。大変だぞ！」と話をしていました。
娘は大学卒業が近かったので、自分が自宅から出ても大丈夫だと思っていました。
今となっては、思う通りに挑戦させてくれたことに感謝です。

（2）自校の管理職、同僚からの理解や支援です。
ミドルリーダーの時に、校長から人事面接で「是非、管理職に挑戦してごらん」と声をかけていただきました。

（3）管理職を目指す時に参加した、旭川市校長会・教頭会の地区毎で開催される研修会、上川管内女性管理職会の研修会、同窓の研修会は、大変勉強になりとても役に立ちました。

私にとっては、この3つの支援全てが必要だったと思います。

3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？

今まであまり気づいていなかったことですが、あらためて考えたことは6点、ございます。

（1）人として懐の深さやあたたかさ、しなやかさが大事である。
（2）相手意識を持つことが大事である。
（3）根拠をもって、責任をしっかり果たす。
（4）組織として機能させることの大切さと難しさ。
（5）コミュニケーション能力を高める必要がある。
（6）校長会、教頭会、女性管理職会や同窓会など、縦や横の繋がり、そのネットワークに支えられている。

コミュニケーション能力については、これまでは一般職同士でしたので、先生方と話をしても受け入れてもらえる、対等に話ができる関係にありましたが、管理職になると、校長として話すことや教頭の言葉には、とても気をつけていかなければなりません。
例えば、校長ですと職務命令と捉えられると困りますし、教頭ですと軽くアドバイスしたつもりが「教頭から指導された」というような、一種のパワハラと受け止められる場合もあり得ます。そうなると、組織を動かし学校全体を機能させようと話をする時も、人の理解の仕方には個人差がありますので、「あまり言えない」と思うことも少しありました。

ネットワークは非常に大きいですね。コロナ禍に関して言うと、学校の感染症対策が近隣校と異なるとハレーションが起きる可能性がありますので、近隣校と小まめに連絡を取り合い、情報交換することで適切な感染症対策を行うことができていると思います。これはとても有り難いことで、近隣校とのネットワークに感謝しています。

4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

3点、ございます。

（1）個人的には「自分に磨きをかける」「自分を高める」意識を、今まで以上に持てるのかなと思います。

（2）子どもたちや教職員の成長、成長した姿を一緒に共有できることも、魅力だと思います。

先生からの「この子は、こんなことができるようになりました」という報告だけでなく、子どもたち自身から「こんなことができた～！」という成就感や達成感、そういう姿をその場で見ることができる。先生方とも「この子、これができてよかったね！」というやり取りができ、直に成長とか達成感を共有できることは非常にやりがいがあり、「じゃ、次は？」という意欲に繋がっていくと思います。

また、学級担任として子どもたちを見るのと、管理職として全体の子どもたちを見ることは、少し視点が違うと思います。学校を回って見ていると、学校全体の日々の様子がよくわかり、全ての子どもたちの活動する姿、子どもたちの成長の姿を直に見ることができます。

小学校では、学級経営にこだわりを持つ先生や、授業で子どもたちを鍛え育てることへの思いが強い先生がいます。

ただ、ある程度の年齢になり、ミドルリーダーになった時に、「自分一人が頑張っても、子どもたちは思うようには育っていかない」ことや、「集団として、チームとして、組織として、先生方が同じ方向を向き、同じ目標をもち、子どもたちを鍛え育てていくことが、とても大事だ」ということに気づきます。そのような教師の成長が、子どもたちの成長した姿として見ることができるのは、管理職のやりがいと思います。

（3）本校は旭川市の中心部にありますが、地域や保護者がとても協力的です。教職員とも共通理解や、良くわかり合えた中で、学校運営や学級運営ができていることは本当に有り難く、やりがいがあると思っています。

学校運営協議会やPTA活動は、コロナ禍で思うように活動できない状況にありますが、地域の方々と連携を図りながら、続けることができていることに感謝しています。

5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

3点、ございます。

（1）自分を磨く時間を努力して作って欲しい。

「忙しい」とか「何かあってできない」とかは、言い訳にしかならないと思います。

何とか自分を高める。それは研修でなくても、その人にとって価値があることであればいいと思いますので、そういう時間をきちっと作って欲しいと思います。

（2）教員として、スペシャリストの自覚と誇りを持てるようになって欲しい。

（3）チャレンジ精神を忘れないで欲しい。

子どもたちには「チャンレンジしなさい」と言っていますが、今あるものを新しいものへ変化させることに抵抗感を持つ職員がいます。「知らない」とか「経験していない」ことに対してあまり躊躇し過ぎず、「挑戦することが楽しい」ということを知って欲しいと思います。

新たな学校に赴任して間もない頃は、前任校との様々な違いに戸惑うこともありますが、情報に惑わされ過ぎず、正しいと思う判断をしていかなければなりません。

「コロナ禍だからできない」とは言わないで、「できる方法があるのではないか？」と探っていく、そのようチャンレンジ精神で取り組んで欲しいと思います。

それはきっと自分のためになるし、子どもたちのためにもなる。そして、学校のために繋がっていくのではないかと思っています。

私は今まであったことに、あまり固執はしません。そういう意味では、コロナ禍というのはチャンスでもあると思います。先生方も一生懸命取り組んでくれていますし、とても感謝しています。

6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気をつけていますか？

2点、ございます。

（1）自分も通ってきた道ですが、親として自分も育てられていったので、いっしょに成長していく意識が大事です。

（2）本校にも産休・育休に入った職員がいますが、育休終了後の復職について気をつけることを、次のとおり伝えました。

・女性であれば妻の立場と母親の立場、男性であれば夫の立場と父親の立場など、たくさんの役割を果たしていかなければならないので、復職後は家庭と仕事をしっかり切り替えることと、両方のバランスを取ること。
・全てを完璧にはできないので、完璧を目指さないこと。
・ただし、教員としての責任は果たさなければならない。それを忘れてはならない。

8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

「やりたいと思うことは、後悔がないようにやって欲しい」「誰かのせいにしたり、何かのせいにしたり、言い訳は控えて欲しい」と思います。

もし、管理職を目指すかどうか迷っている職員がいたら「答えを出すのは本人しかいない。だから最後は自分で答えを出しなさい」と伝えると思います。

教員も管理職も覚悟が必要ですし、自分で決めたことは後悔することもない。確かに、様々な状況や条件などはあると思いますが、要は、本人が「やりたいと思うのかどうか」「やる覚悟が自分の中にあるのかどうか」それだけだと思います。

自分の人生は自分次第。きっと何とかなりますよ。

［インタビュー実施月：令和4年3月］

インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。